

キックオフミーティング参加者の発言要旨

<p>宮西 達也 さん (絵本作家)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長続きをさせるためには、絵本作家が先頭に立って絵本のまちをつくるのではなく、みんなが声を上げること。お金をかけなくてもいいから、地道にやっていくこと。 ・三島にある絵本に関連する「点」をつなげていきたい。つなげないと、絵本のまちにはならない。 ・みんなで分担してみんなでやると、みんなが意識を持つようになる。市民が知らないのではいけない。皆で意識を持って、土台をつくっていかないといけない。 ・何か特徴を持たせて、すてきな魅力ある絵本のまちにしたい。
<p>えがしら みちこ さん (絵本作家)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「点」と「点」をつなげて基盤をつくっておけば、大きく花火をあげて注目されたときにも、中身のある街になる。
<p>スギヤマ カナヨ さん (絵本作家)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本に精通している一部の人が盛り上がるのではなく、絵本に関係のない人たちをいかに巻き込んで、それらの活動を自分たちがアシストしていくことが大切。 ・派手なことをやるよりも、まずは中でつながって行って、絵本にはそれほど興味がない人たちも「面白そうだから一緒にやってみようか」となるような仕組みが、じわじわと作れたらいい。
<p>竹山 美奈子 さん (絵本作家)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスレクシアのお子さんのように、絵本を読むことが難しい子どもたちにこそ、絵本を届けたい。 ・三島には「点」がたくさんあるが、市民には知られていない。告知広報をしっかりとやるだけでも、絵本のまちという印象付けが、市の内外に伝わる。
<p>坪井 則子 さん (佐野美術館館長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「絵本のまち三島」で「何をするのか」という根本的なところの道筋を通す必要がある。 ・いくつになっても絵本に接することのできる機会を多くつくるというのがよいのでは。
<p>段 千恵子 さん (てんとうむし文庫代表)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが「この本がいい」などと言ってくれるといいな、本と出会える場所になればいいなと思い、活動をしている。
<p>徳丸 まゆみ さん (あひる図書館副館長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本と出会うきっかけになるまちだね、と言ってもらえるような何かをつくりたい。 ・大人が楽しめそうなテーマで人を集め、絵本をそれに結びつけることで、ハードルが下がる。
<p>杉浦 美和 さん (りぼんクラブ会長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本に助けられるのは、絵本のある場所に連れてきてもらえない子ども。子どもが絵本を手にとることができ、話し相手もいる場所があればいい。 ・「行きやすい場所」に絵本があるということが必要。
<p>河合 孝彦 さん (三島市福祉応援大使)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ツールとしては絵本があり、絵本作家や絵本に関わる方々もいるので、下地はできている。あとは、絵本を使ってどうコミュニケーションをとるかということだと思う。
<p>山内 知恵子 さん (三島絵本をたのしむ会代表)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本を通してつながることができたり、語りかけることもできる。 ・絵本以外の要素をきっかけとして、絵本につながるというのはとても良い。 ・間近で絵本の原画を見られるというのは、本当に贅沢なこと。